

サラリーマンとして62才で退職、63才で愛知学院大学開放講座生として受講、現在に至る。

大学で知的好奇心と若さを貰う

10分間の休憩時間に大学構内の端から端へ移動するのは、六八才の私にはかなりの負担です。現役の学生君の授業に混じって受ける開放講座に魅せられて六年目、文学部、商学部、法学部などの気に入った学科をつまみ喰いしているので、教室の移動が付きまといます。お釈迦様の生き様に關心した次ぎは、ジェンダーの社会に憤慨し、ビジネス関連授業では、時には先生の求めに応じて、社会人時代の経験談を披露したりと、知的好奇心を揺さぶられる雰囲気にはひたる日々です。講義が終わると、こんどは部室に駆けつけます。二年前から部活（クラブ活動）にも入れていただき、美術部で活躍です。イヤ、ホント。今年の学園祭（大学祭）には、わが美術部は焼きそばの屋台を出し、私は、年がいもなく仮装して客引き役を受け持ち、好評をいただきました。年に数度あるスケッチ合宿にも参加し、深夜まで若者の恋の悩みの聞き役になったりすることもあります。もちろん本業？の絵画は、学内外で開催される展覧会には、必ず出展するようにしています。年少のころプロの画家に習った経験が少しあり、時には若者が「いいキャラしてるね！」ってほめてくれる作品が出来上がることもあります。学外の展覧会などでギャラリーの方が「美術の先生でいらっしゃいますか」なんて間違われることがあり、説明に困ることがありますが、部員はみな仲間として分けへだてなく付き合いしてくれるのがうれしいのです。

会社生活を退職後は、ゴルフもパチンコもできない暇を持て余し、高年者向きのカルチャー教室や公開講座に熱心に参加していましたが、どうしても講義が受身であり、周囲が同世代ばかりで

陰気臭く馴染めませんでした。そんなとき、学生の授業に混じって受講する開放講座を知り、さっそく受講の手続きをとったのです。現代の学生君は、半世紀前の私の経験した大学とまったく違った行動と環境の中にいるので、最初は戸惑いました。

授業が始まってというより、殆ど終了間際に悪びれもせずに入室して来たり、飲み食いしたり（さすがに喰いのほうは先生が注意しました）何でもありに思えました。でも、考えようによっては、遅れてでも授業に出席する熱心さ、食事も抜いて授業に駆けつける健気なさと受け取ることも出来ます。

部活のコンパや合宿のとき、年配者のわたしに生活の知恵を求めたり、バイトと勉強の両立の難しさを嘆いたり、とてもかわゆいところもあるのです。講義のレポートをインターネットで提出を求められたり、板書を書き取るのではなく、パソコンを操作するなど、隣の席の学生君に教えてもらいながらの授業もあり、気を抜くことは出来ません。

年金生活でカミさんと二人暮らし。孫はいても皆忙しくてなかなか遊びに来てくれない。夕食当番だけでは暇を持て余すわたしに、生きがいを与えてくれたのが、この開放講座でした。聴講生でもないので単位の認定は無く、望まなければ期末試験もパスできますが、がんばってテストを受けるようにしています。

地球の歴史、生物の進化、仏の教え、少子高齢化社会、差別やジェンダー、みな開放講座で知識を受け、問題意識を持ちました。金儲け、人付き合いなどに四十年も費やしてきたのが悔やまれますが、真の教養の習得に間に合っただけでよかったと感謝しているこの頃です。カルピスソーダなんて飲み物は、ビール、ワイン、チュウハイしか知らないわたしにとって異文化そのものです。コンパに参加しなければ、一生味わずに人生を終わっていたことでしょう。

完